XML⇔CSV相互変換ツール

XMLEdi *ver1.20* 取扱説明書

株式会社eビジネスソリューション

目次

1．XMLEdiの概要 P.1

2．インストールとアンインストール P.2

3．画面説明 P.3

　3－1．ローカルファイルマネージャ P.3

　3－2．XMLEdi P.4

4．画面操作 P.5

　4－1．ローカルファイルマネージャ（XML⇒CSVへの変換） P.5

　4－2．XMLEdi（XML⇒CSVへの変換） P.9

　4－3．ローカルファイルマネージャ（CSV⇒XMLへの変換） P.12

　4－4．XMLEdi（CSV⇒XMLへの変換） P.20

5．コマンドラインからの変換処理（バッチ処理） P.24

　5－1．書式 P.24

　5－2．処理結果の確認 P.24

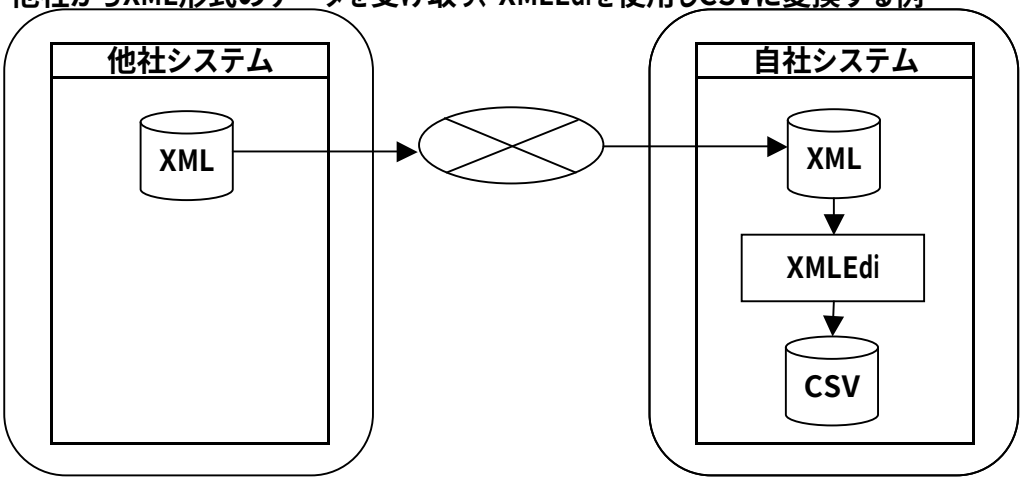
6．付録 P.25

　6－1．XMLファイルヘッダ項目一覧 P.25

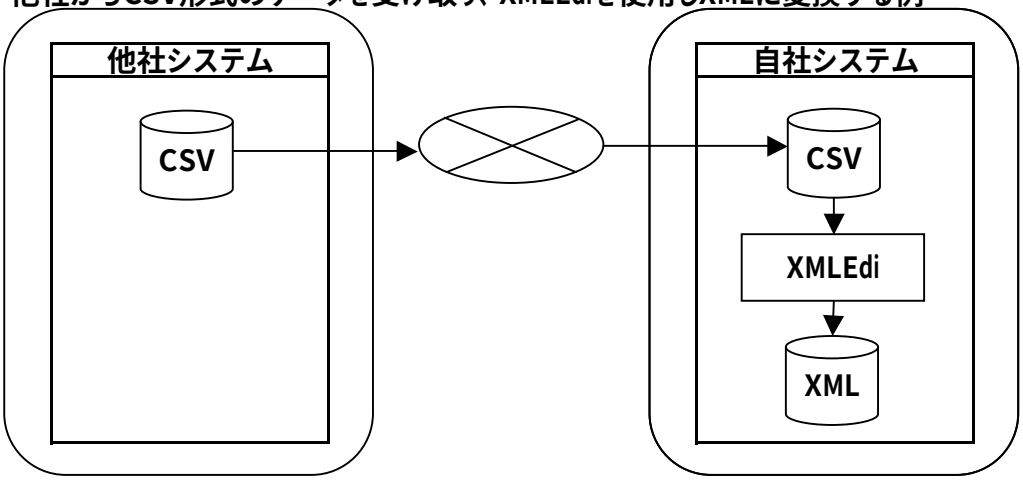
1. XMLEdiの概要

XMLEdiは、(財) 日本情報処理開発協会 電子商取引推進協議会が策定した
CII標準 (CIIシンタックス ルールおよびXML/EDIマッピング規則) に準拠した
EDIデータ変換ソフトです
XML形式からCSV形式、CSV形式からXML形式へ相互変換させる事が可能です

他社からXML形式のデータを受け取り、XMLEdiを使用しCSVに変換する例



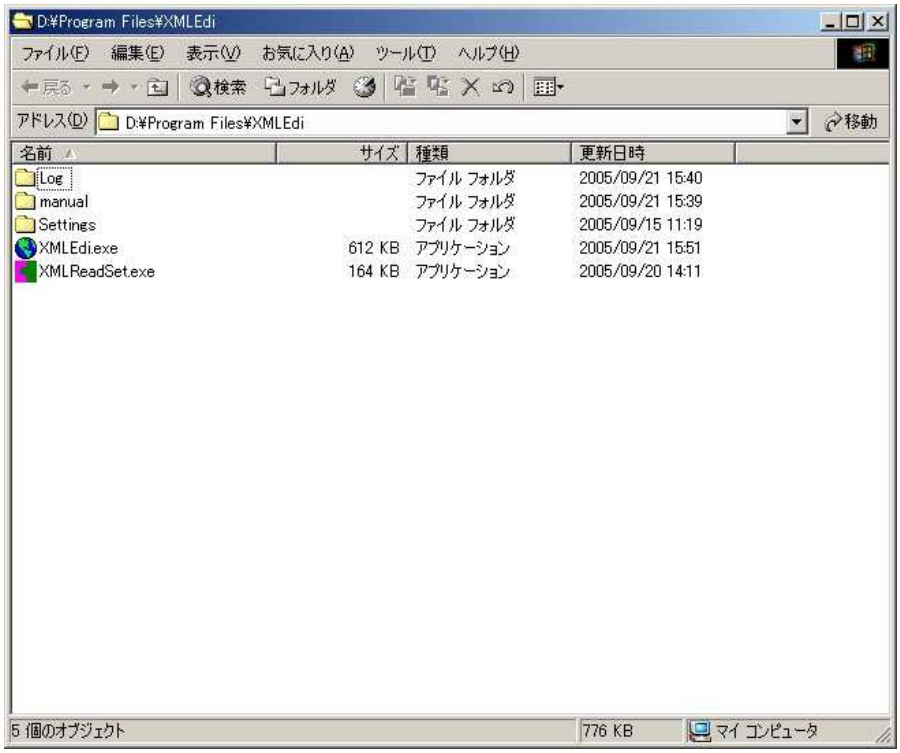
他社からCSV形式のデータを受け取り、XMLEdiを使用しXMLに変換する例



2. インストールとアンインストール

インストール

XMLEdiディレクトリ以下を任意の場所へコピーしてください



例) D:\Program Files\へXMLEdiディレクトリ以降の全ファイルをコピーします

※以降のページについては、上記のディレクトリにインストールしている事を前提に説明します

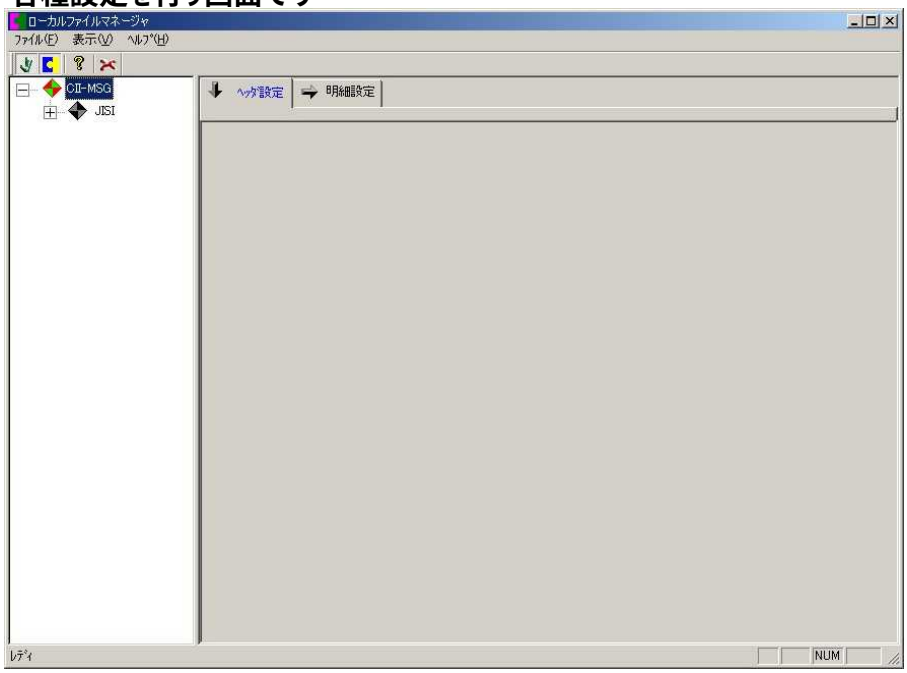
アンインストール

XMLEdiディレクトリ以下を直接削除してください

3．画面説明

3－1．ローカルファイルマネージャ

ローカルファイルマネージャとは、XML⇒CSV及びCSV⇒XMLの変換に関する各種設定を行う画面です

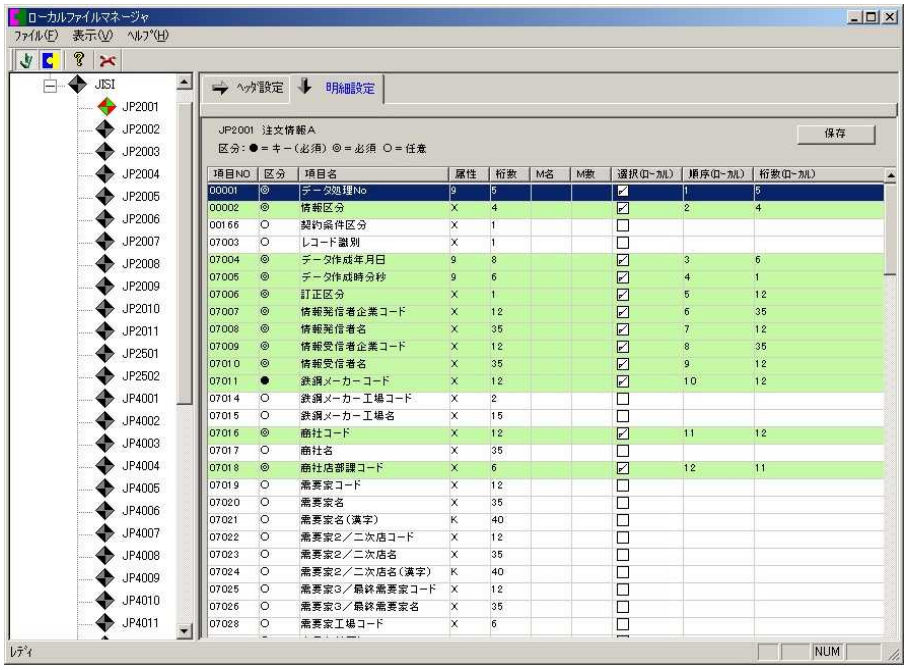


3－1－1．左ペイン

変換時に使用する情報区分がツリー表示されます

3－1－2．右ペイン（**ヘッダ情報タブ**）

各情報区分に対応したヘッダ情報タグの内容が表示されます

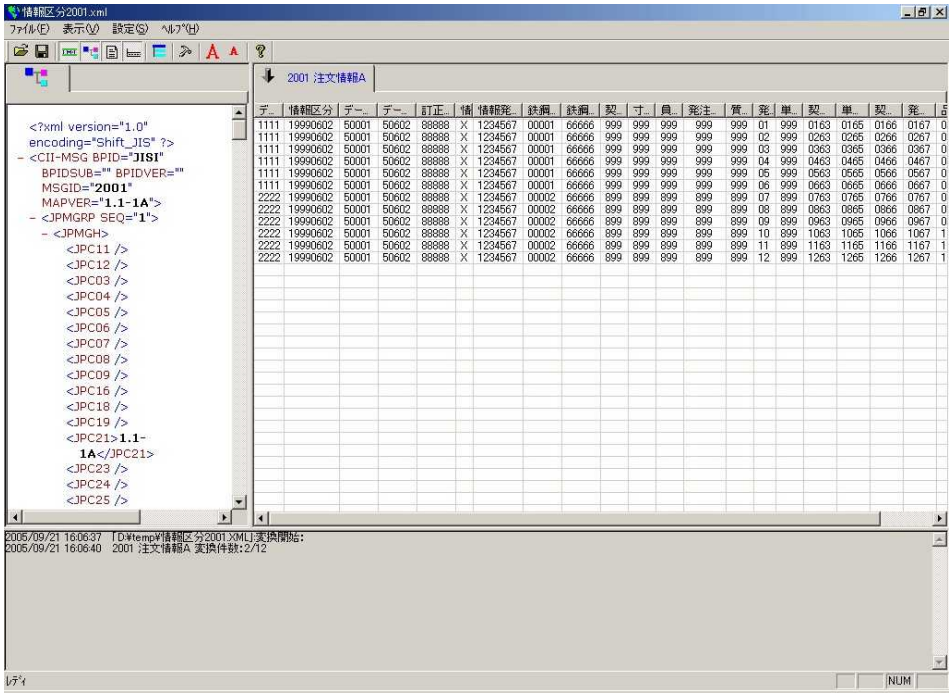


3－1－3．右ペイン（**明細設定タブ**）

各情報区分に対応した明細情報タグの内容が表示されます

3－2．XMLEdi

XMLEdiとは、XML⇒CSV及びCSV⇒XMLの変換を実行する画面です



3－2－1．左ペイン

XMLのソースが表示されます

3－2－2．右ペイン

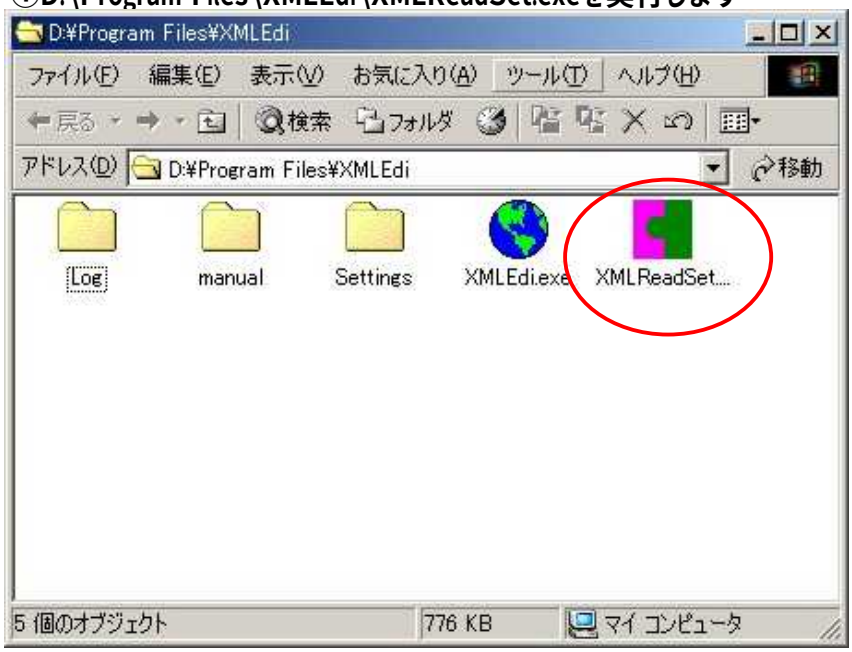
変換結果を画面に表示します

4．画面操作

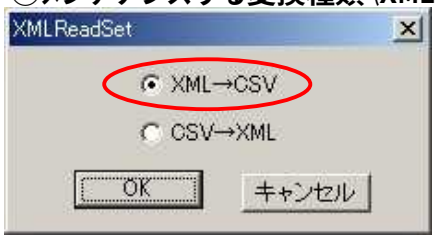
4－1．ローカルファイルマネージャ（XML⇒CSVへの変換）

ここでは、情報区分”2001”のXMLファイルから必須項目以外を変換させない指定の場合の例を説明します

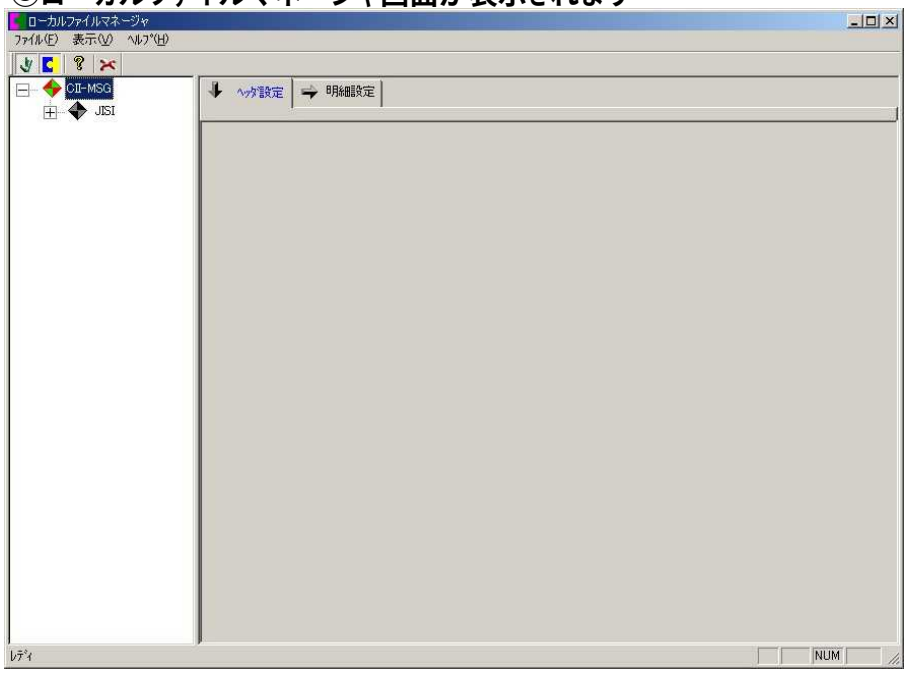
①D:\Program Files\XMLEdi\XMLReadSet.exeを実行します



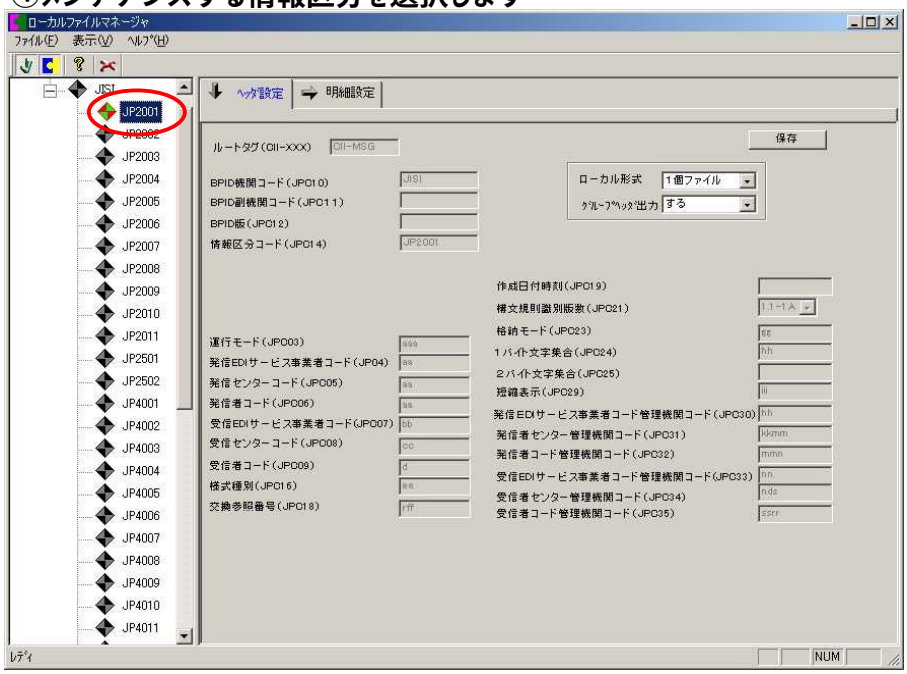
②メンテナンスする変換種類（XML⇒CSV）を選択します



③ローカルファイルマネージャ画面が表示されます



④メンテナンスする情報区分を選択します



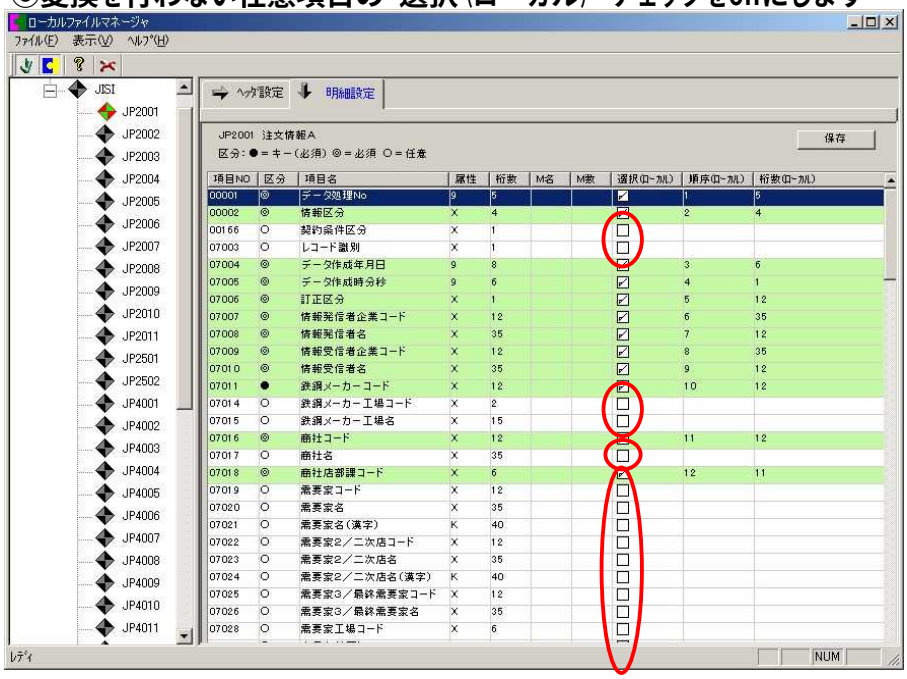
☆ヘッダ設定タブについて

ヘッダ設定タブは、変換種類（前ページ②）により内容修正が可能となります

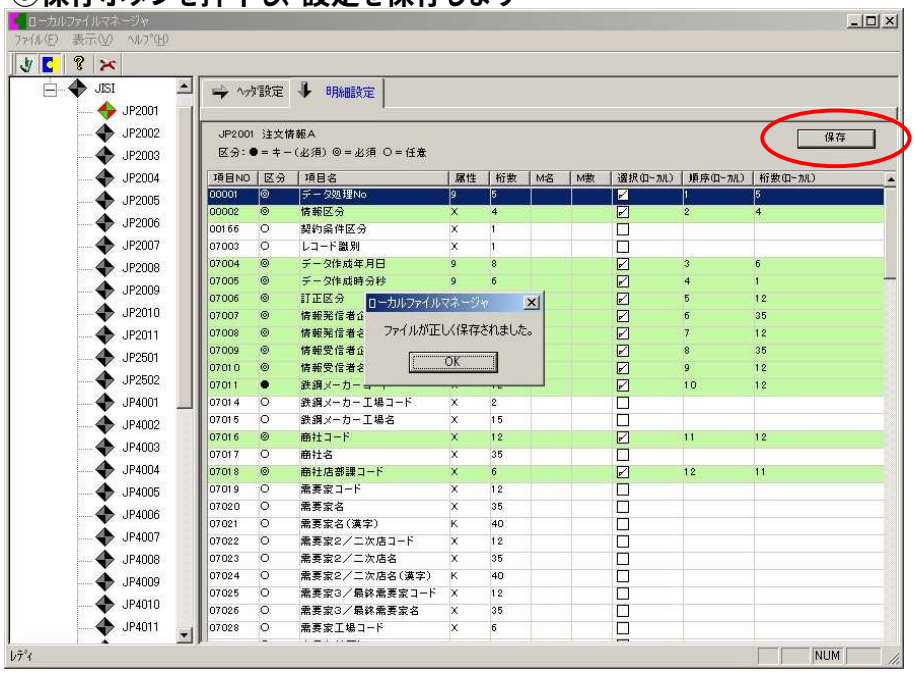
変換種別	ルートタグ・BPID機関コード・情報区分コード	左記以外の項目
CSV→XML	変更不可	変更可
XML→CSV		変更不可

⑤明細設定タブを選択します

⑥変換を行わない任意項目の”選択（ローカル）”チェックをoffにします



⑦保存ボタンを押下し、設定を保存します



以上で、情報区分”2001”用の設定変更が完了しました

☆ローカルファイルマネージャ「明細設定タブ」画面仕様

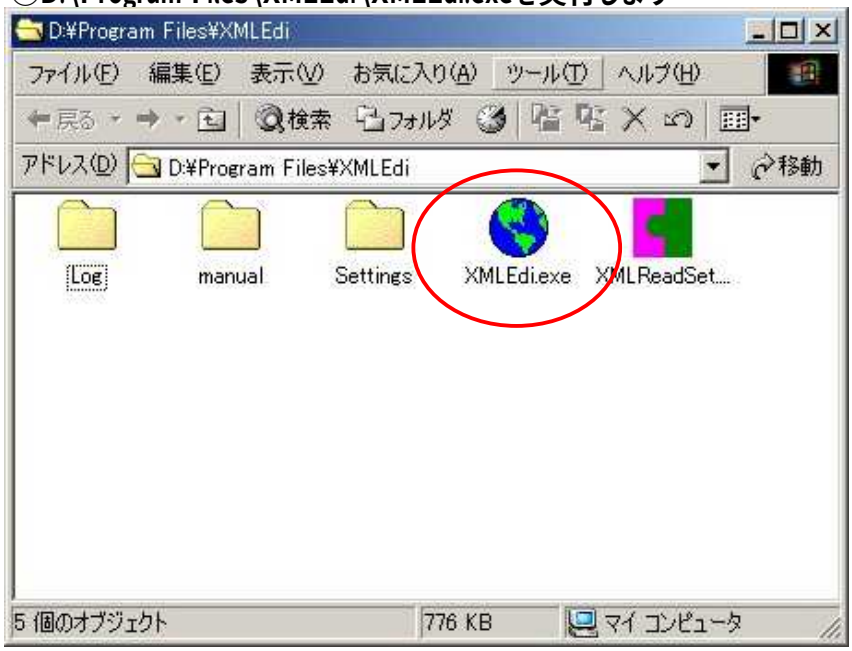
項目名称	表示内容・設定内容
項目No	変換元データの設定内容を表示（変更不可）
区分	
項目名	
属性	
桁数	
M名	
M数	
選択（ローカル）	on：変換させる、off：変換しないの選択を指定
順序（ローカル）	変換後の項目位置を指定
桁数（ローカル）	変換後の桁数を指定

※画面上、緑色にハイライトしている行については、キー必須・必須項目な為
選択（ローカル）へのon、offの指定は出来ません
（この場合、変更不可な値としてonが適用されます）

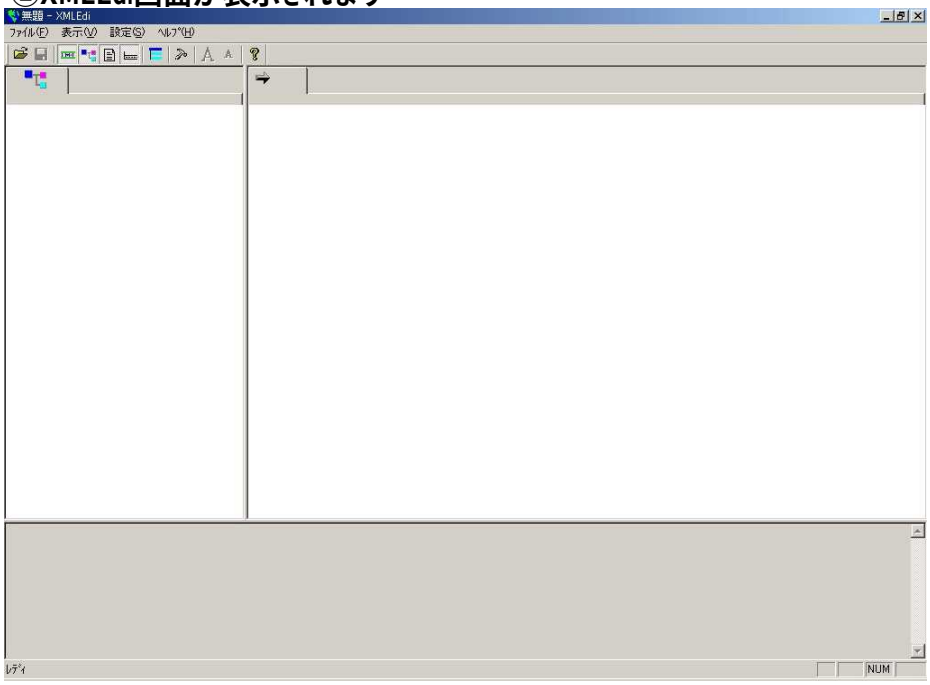
4－2．XMLEdi(XML⇒CSVへの変換)

ここでは、情報区分”2001”のXMLファイルから必須項目以外を変換させない指定の場合の例を説明します

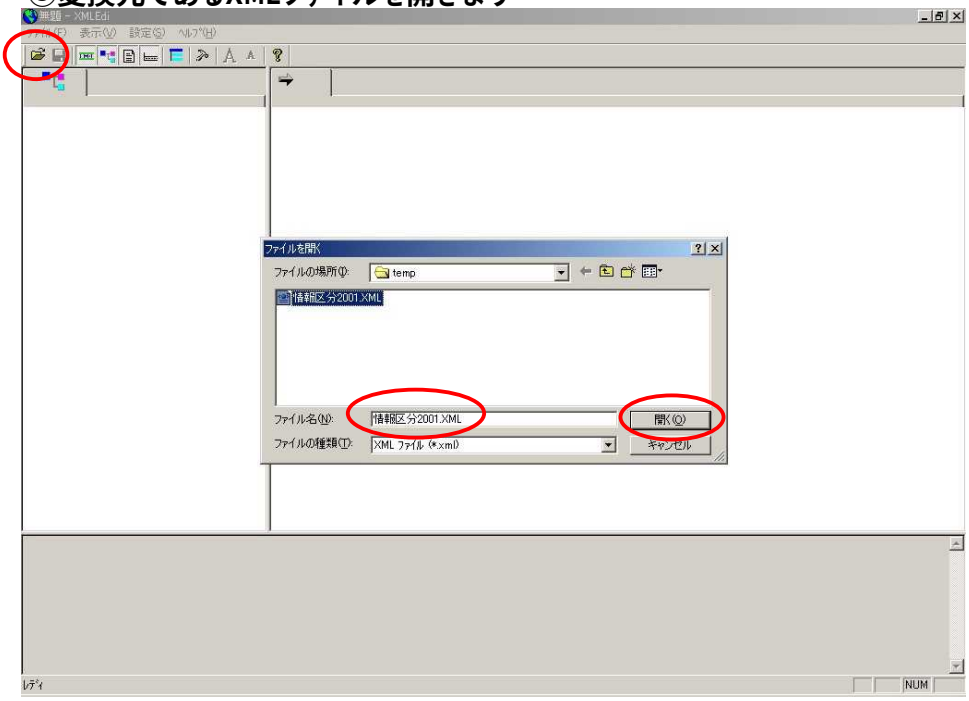
①D:\Program Files\XMLEdi\XMLEdi.exeを実行します



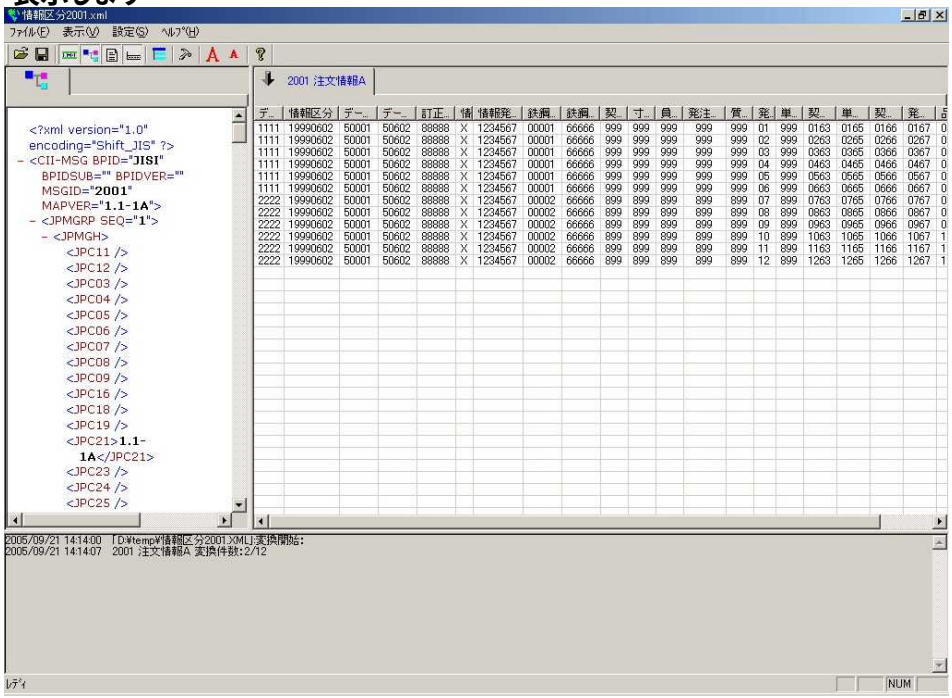
②XMLEdi画面が表示されます



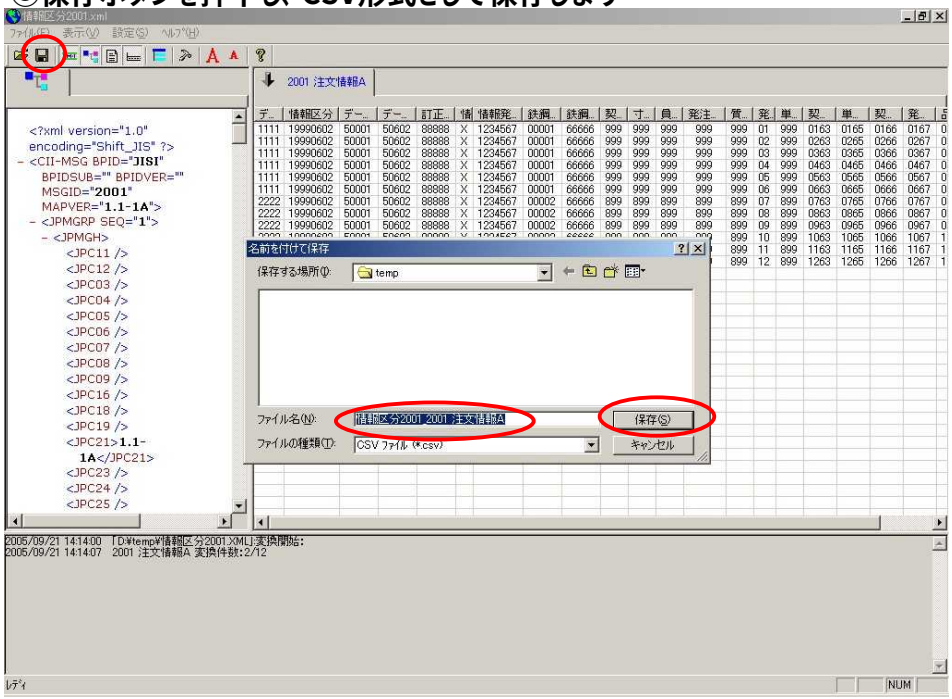
③変換元であるXMLファイルを開きます



④変換処理に成功すると左ペインにXMLソース、右ペインに変換結果をそれぞれ表示します



⑤保存ボタンを押下し、CSV形式として保存します



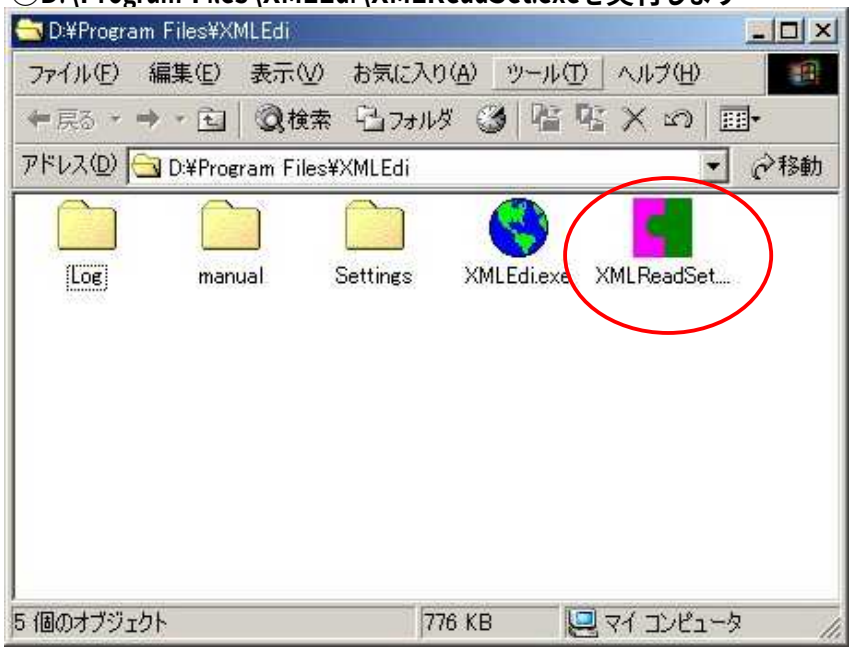
☆この画面でのXMLソース及び変換処理結果一覧のデータ改変は出来ません

以上で、XMLソースからCSV形式への変換処理が完了しました

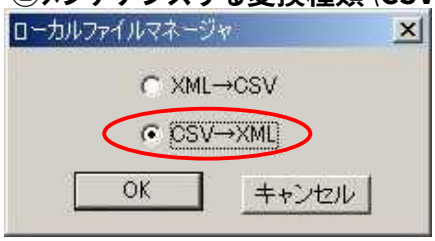
4－3．ローカルファイルマネージャ（CSV⇒XMLへの変換）

ここでは、CSV形式のデータから情報区分”2001”のXML形式のデータを作成する場合の例を説明します

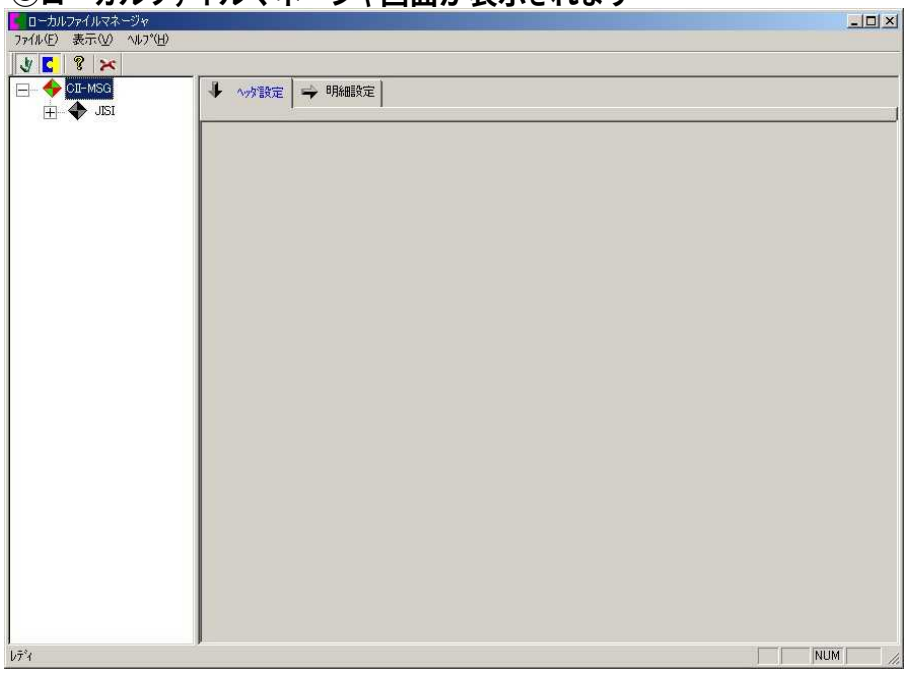
①D:\Program Files\XMLEdi\XMLReadSet.exeを実行します



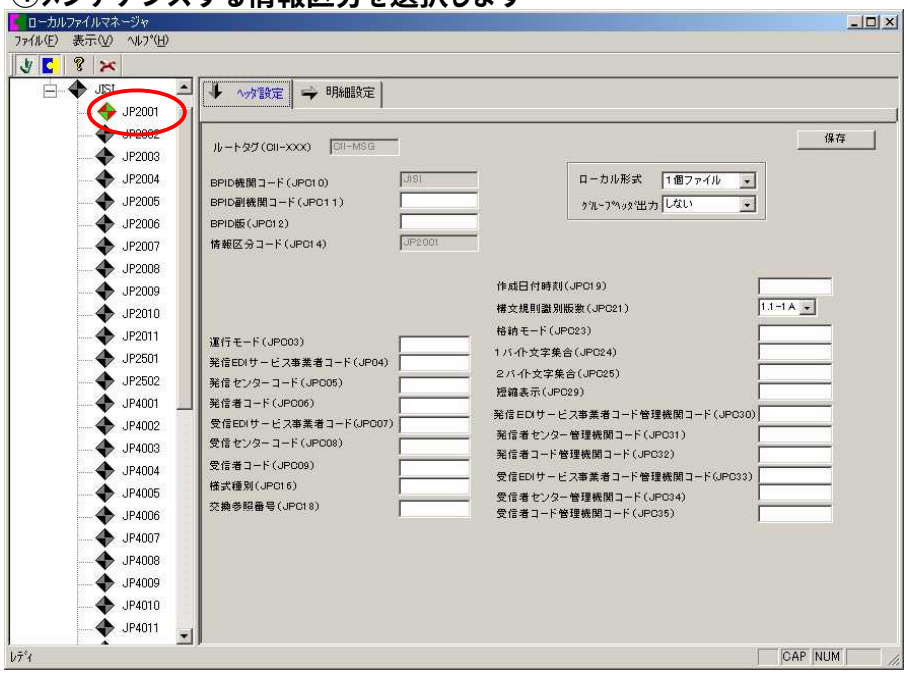
②メンテナンスする変換種類（CSV⇒XML）を選択します



③ローカルファイルマネージャ画面が表示されます



④メンテナンスする情報区分を選択します

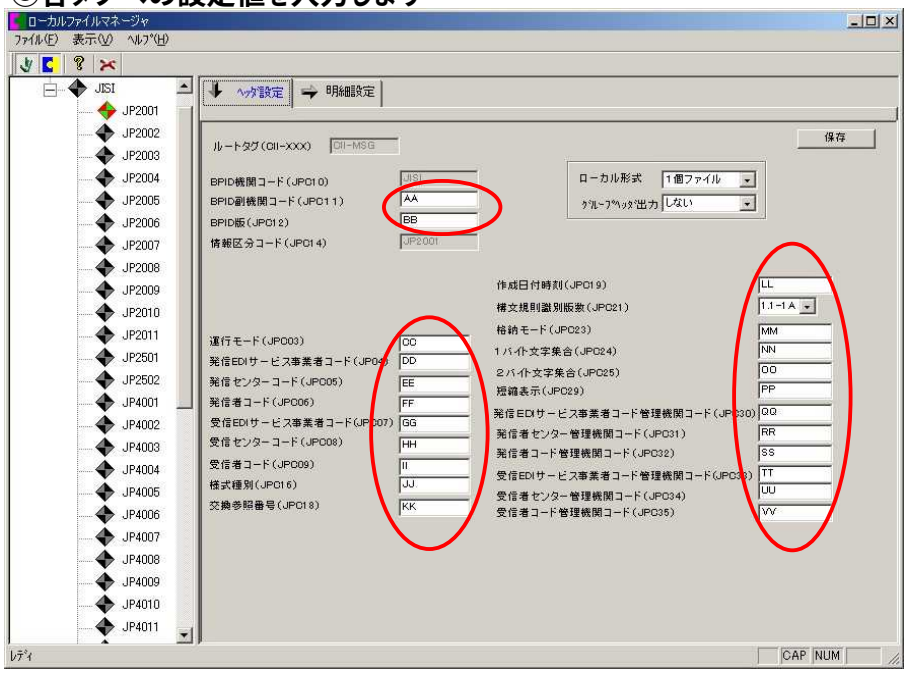


☆ヘッダ設定タブについて

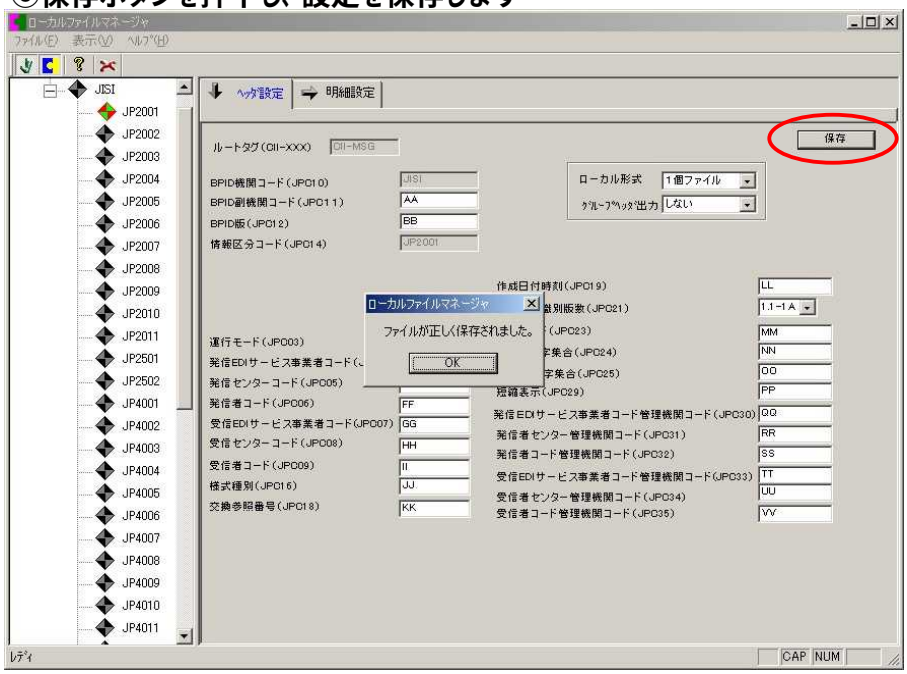
ヘッダ設定タブは、変換種類（前ページ②）により内容修正が可能となります

変換種別	ルートタグ・BPID機関コード・情報区分コード	左記以外の項目
CSV→XML	変更不可	変更可
XML→CSV		変更不可

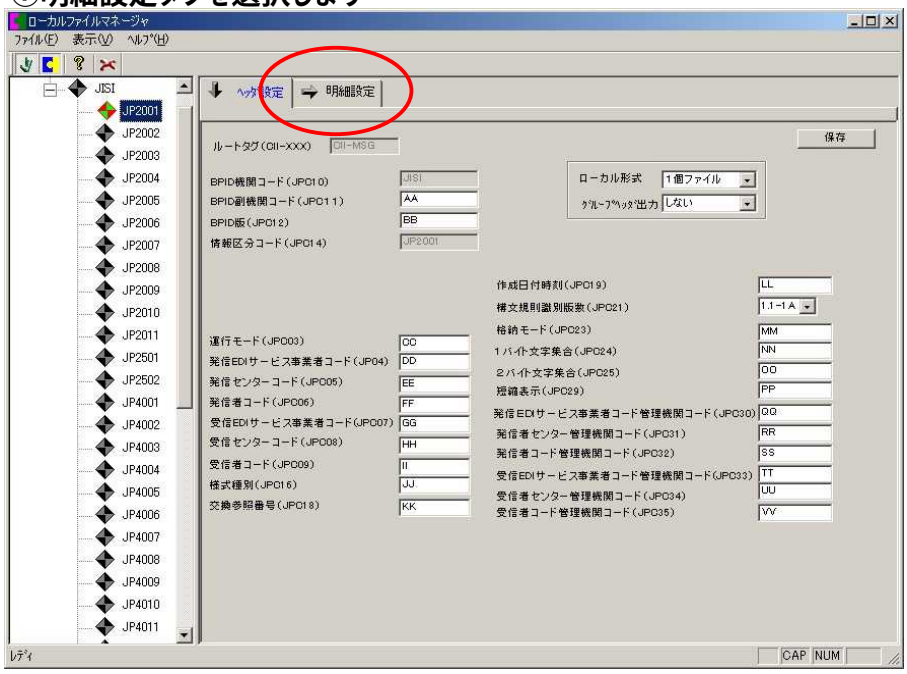
⑤各タブへの設定値を入力します



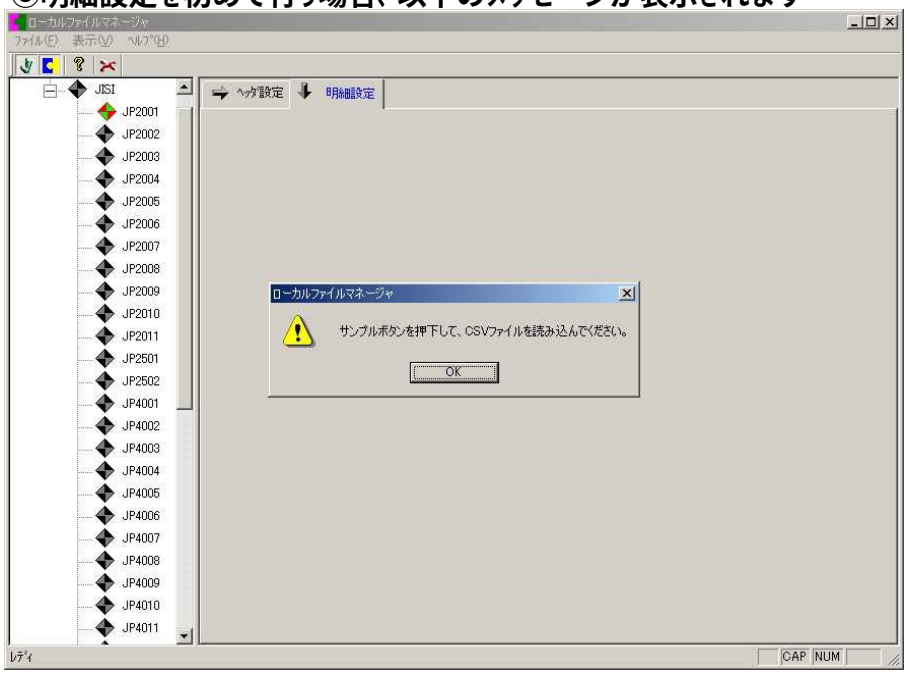
⑥保存ボタンを押下し、設定を保存します



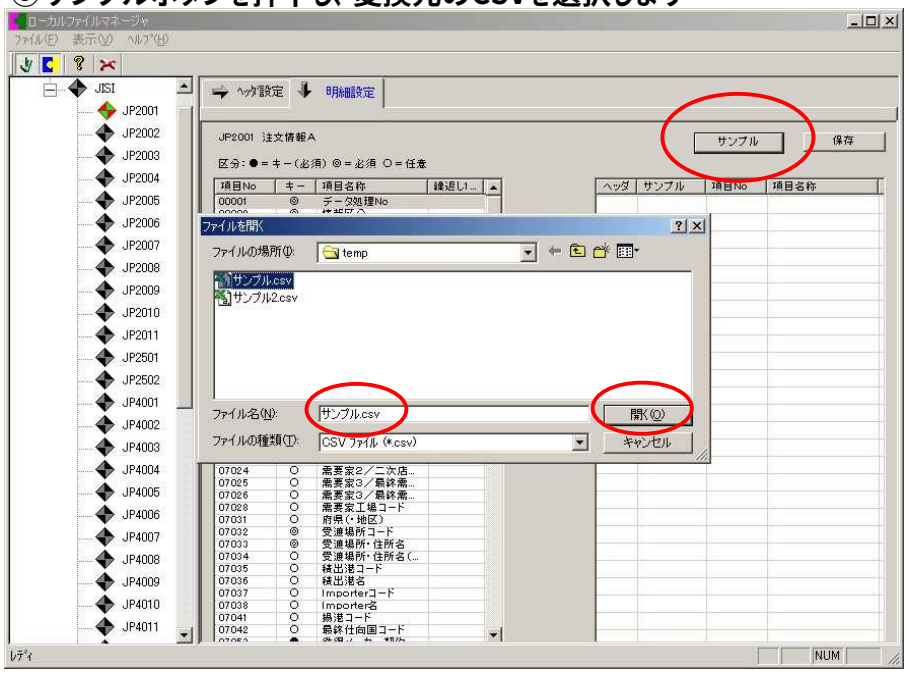
⑦明細設定タブを選択します



⑧明細設定を初めて行う場合、以下のメッセージが表示されます



⑨サンプルボタンを押下し、変換元のCSVを選択します

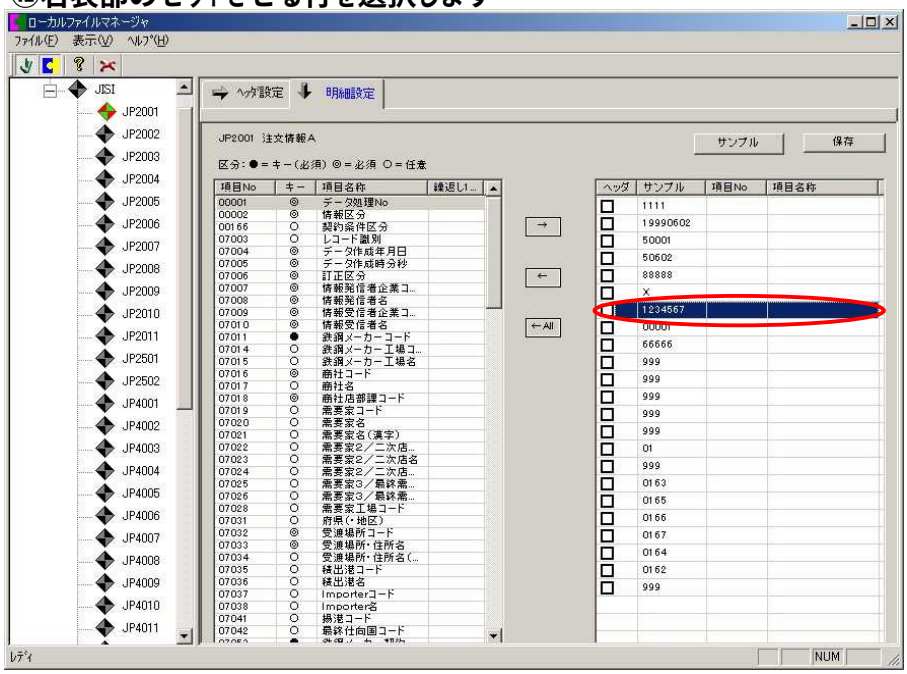


⑩選択したCSVを元に必要な項目数が自動的に右表部に表示されます

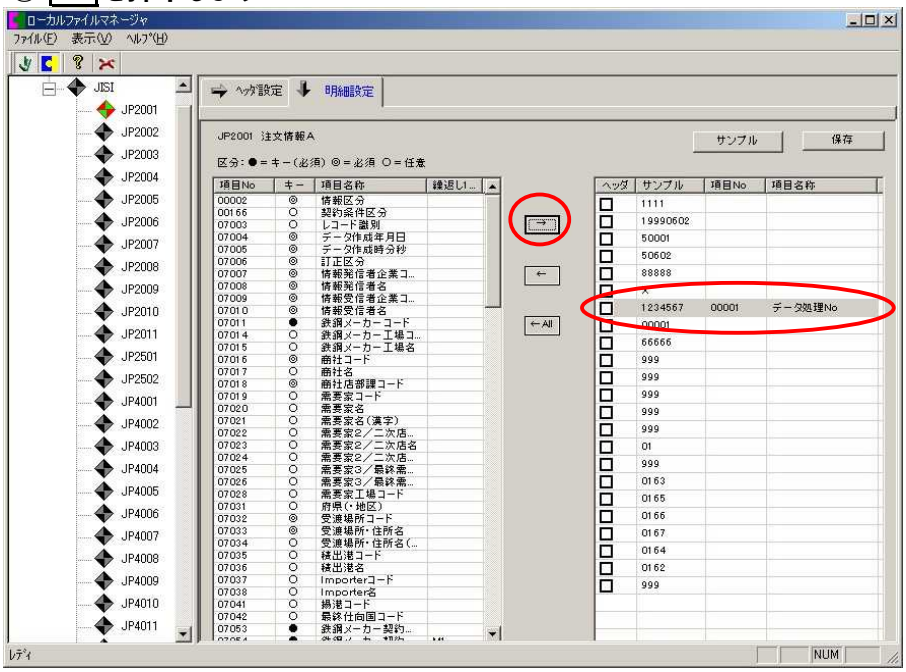
☆右表部のサンプル列には、選択したCSVの先頭1行目が画面表示されます

⑪XMLに出力したい項目を、左表部から選択します

⑫右表部のセットさせる行を選択します



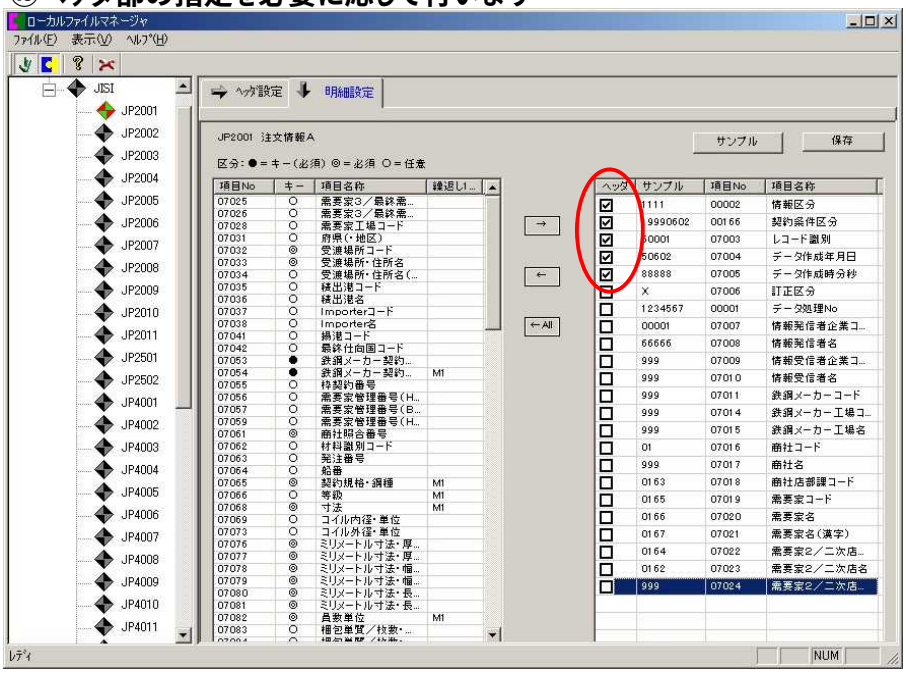
⑬ [→]を押下します



☆左表部から右表部へ選択した行が移動します

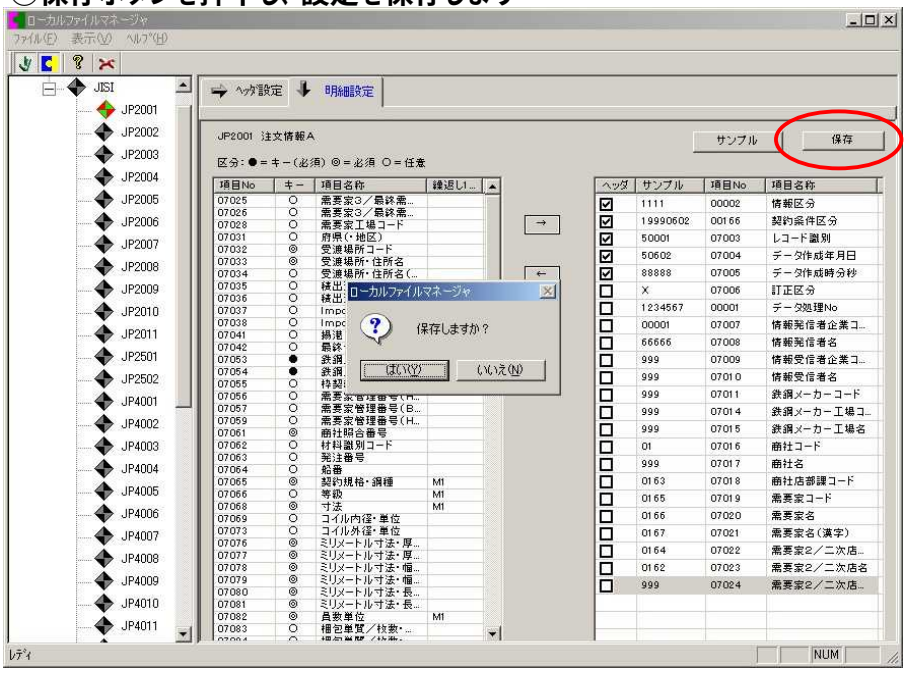
⑭残りの項目についても、同様に指定します

⑮ヘッダ部の指定を必要に応じて行います



☆ここで言うヘッダとは、明細部に対するヘッダであり、XMLのヘッダとは違う事に注意してください

⑯保存ボタンを押下し、設定を保存します

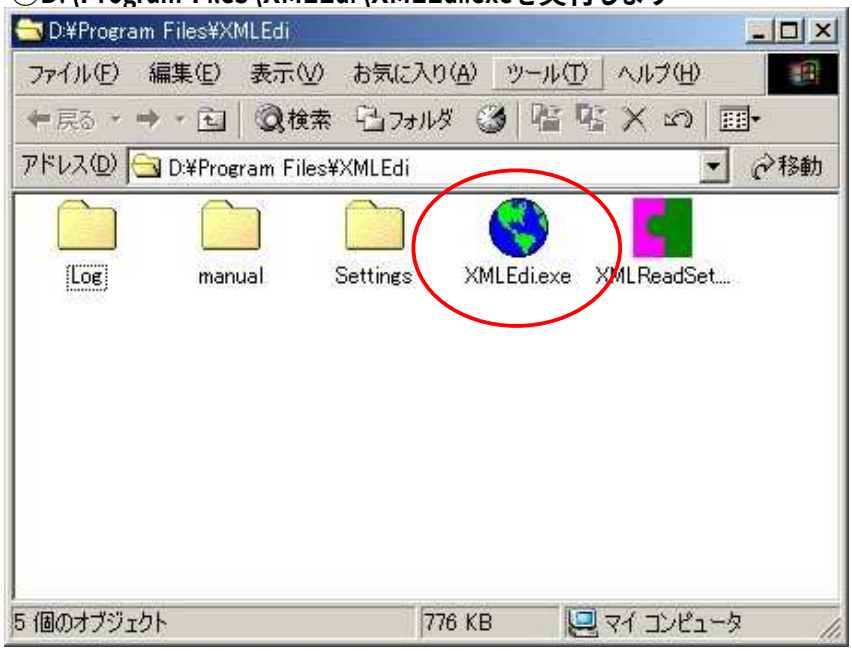


以上で、情報区分”2001”用の設定が完了しました

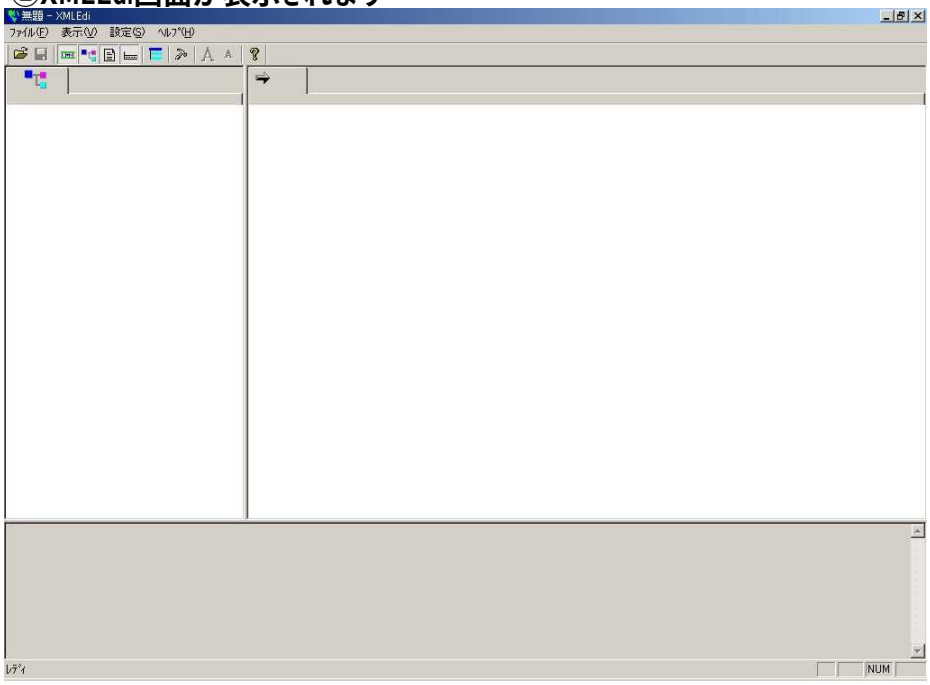
4－4．XMLEdi（CSV⇒XMLへの変換）

ここでは、CSV形式のデータから情報区分”2001”のXML形式のデータを作成する場合の例を説明します

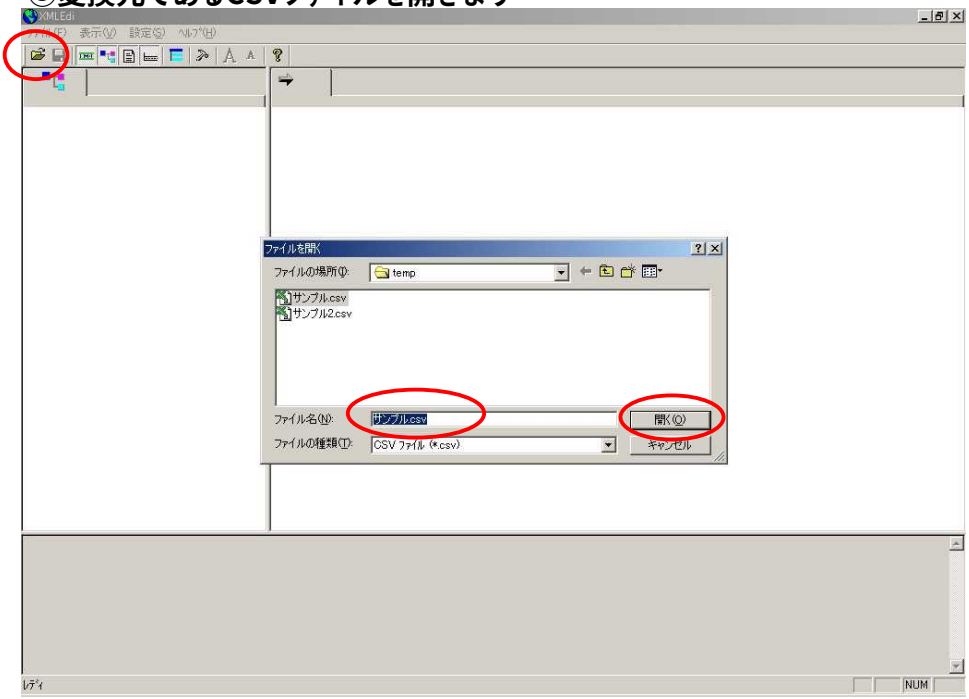
①D:\Program Files\XMLEdi\XMLEdi.exeを実行します



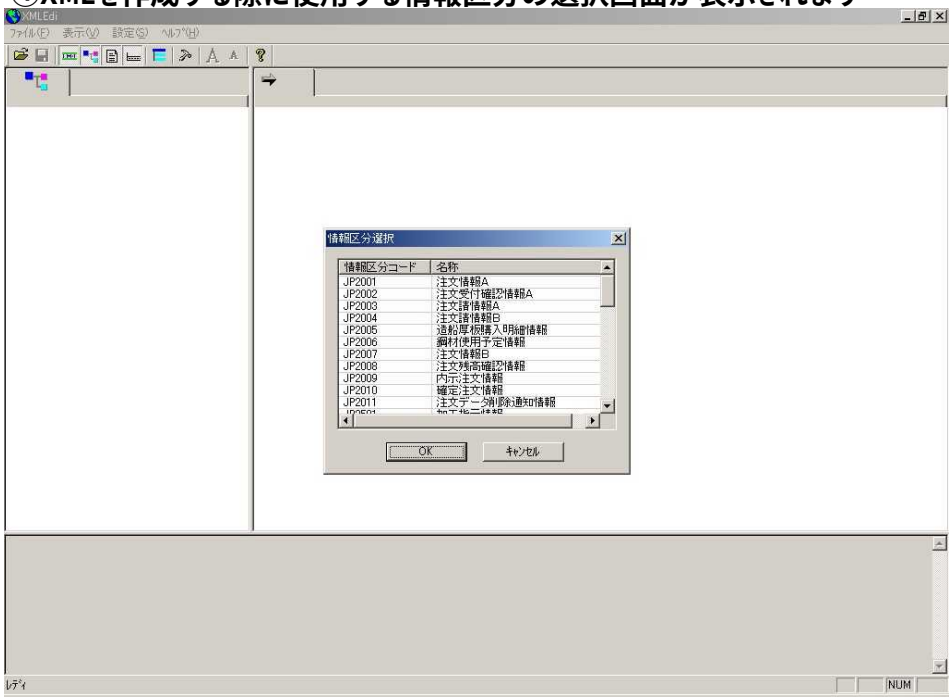
②XMLEdi画面が表示されます



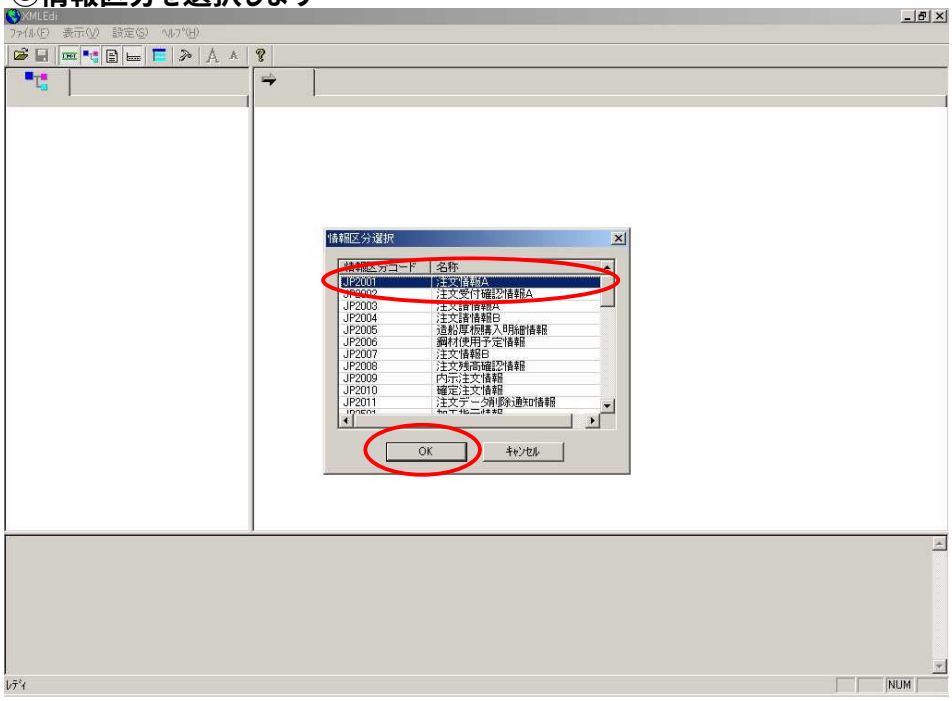
③変換元であるCSVファイルを開きます



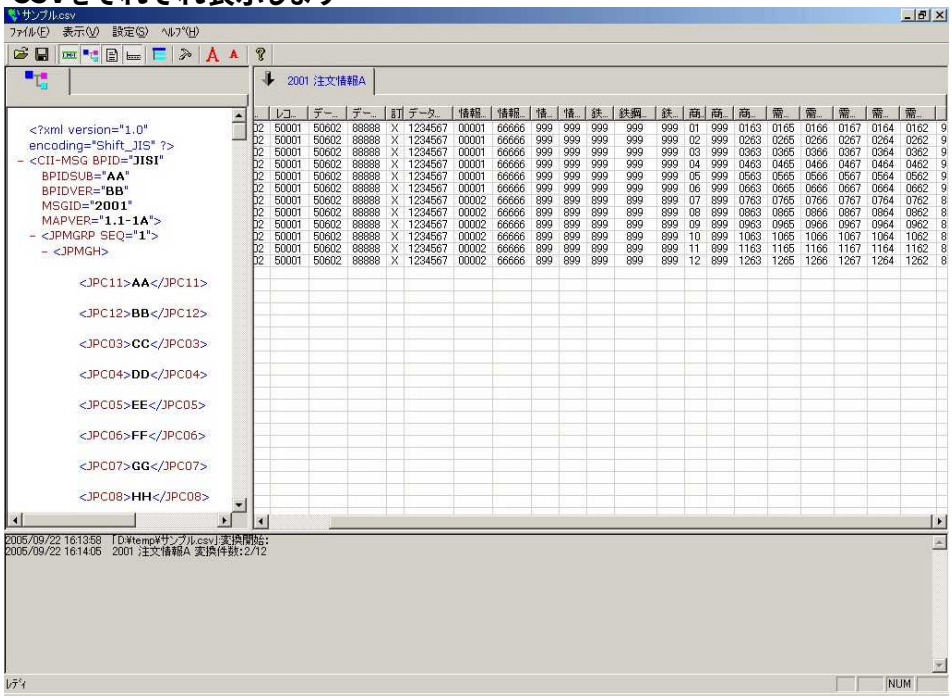
④XMLを作成する際に使用する情報区分の選択画面が表示されます



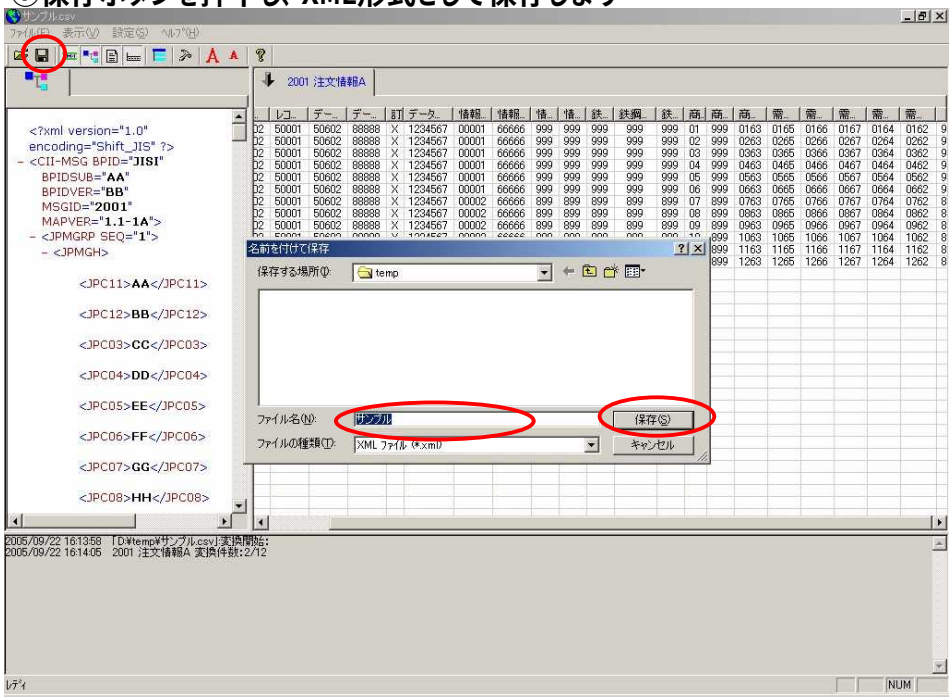
⑤情報区分を選択します



⑥変換処理に成功すると左ペインに変換結果のXMLソース、右ペインに元となったCSVをそれぞれ表示します



⑦保存ボタンを押下し、XML形式として保存します



☆この画面でのXMLソース及び変換元のCSVのデータ改変は出来ません

以上で、CSVからXML形式への変換処理が完了しました

5．コマンドラインからの変換処理（バッチ処理）

5－1．書式

XMLEdi.exe -{s 元}*Source_File* -{d 先}*Dist_File_Path* -{p 設}*Setting_File_Path* -{c 区}*Info_Code*

オプションパラメータ	設定内容
-{s 元}Source_File	***必須項目*** **変換元のパス＋ファイル名＋拡張子**を指定します XMLEdi.exeのあるパスからの相対パス、または絶対パスの指定が可能です また、拡張子も必ず指定してください
-{d 先}*Dist_File_Path*	変換したファイルの**出力先パス**を指定します XMLEdi.exeのあるパスからの相対パス、または絶対パスの指定が可能です このパラメタがない場合、*Source_File*で指定されたパスを仮定します
-{p 設}*Setting_File_Path*	設定ファイルの**パス**を指定します フルパスを指定してください このパラメタがない場合、XMLEdi.exeが置いてあるディレクトリ\Settingsディレクトリを仮定します
-{c 区}*Info_Code*	***csv→xmlに変換するときのみ必要かつ必須項目*** **情報区分**を指定します

例）
C:\DATA\テスト.XLSをCSV形式に変換させる場合のコマンドは以下となります
また、出力先パス・設定ファイルパスはデフォルト値を適用します

XMLEDI.EXE -sC:\DATA\テスト.XLS

5－2．処理結果の確認

インストールしたXMLEdiディレクトリの下にlogディレクトリが生成され、そこへ
各変換結果のログが生成されます

6．付録

6－1．XMLファイルヘッダ項目一覧

XMLEdiにて設定を行う事が可能なヘッダ項目は以下となります

XMLタグ	データ要素名	必須／任意
JPC03	運用モード	必須
JPC04	発信EDI サービス事業者コード	任意
JPC05	発信センターコード	任意
JPC06	発信者コード	必須
JPC07	受信EDI サービス事業者コード	任意
JPC08	受信センターコード	任意
JPC09	受信者コード	必須
JPC10	ＢＰＩＤ機関コード	必須
JPC11	ＢＰＩＤ副機関コード	必須
JPC12	ＢＰＩＤ版	必須
JPC14	情報区分コード	必須
JPC17	様式種別	任意
JPC18	交換参照番号	任意
JPC19	作成日付時刻	任意
JPC21	構文規則識別版数	必須
JPC23	格納モード	必須
JPC24	1 バイト文字集合	任意
JPC25	2 バイト文字集合	任意
JPC29	短縮表示	任意
JPC30	発信EDI サービス事業者コード管理機関コード	任意
JPC31	発信センターコード管理機関コード	任意
JPC32	発信者コード管理機関コード	任意
JPC33	受信EDI サービス事業者コード管理機関コード	任意
JPC34	受信センターコード管理機関コード	任意
JPC35	受信者コード管理機関コード	任意

XML⇔CSV相互変換ツール
XMLEdi 取扱説明書

２００５年9月　初版
発行　株式会社eビジネスソリューション
〒101－0052　東京都千代田区神田小川町3-20　第2龍名館ビル5F